

第2回 運営会議 要項

進行:大坂 和広(理セン協力員)

1 開会の挨拶

佐渡市立理科教育センター所長

濱崎 賢一

2 議事

(1) 令和6年度実施事業報告

- ① 研修事業
- ② 児童生徒・一般対象事業
- ③ 研究事業
- ④ 奉仕事業

～質疑・応答～

(2) 令和7年度の運営について(案)

- ① 運営の基本方針
- ② 運営の重点
- ③ 事業の内容
- ④ 予算

～質疑・応答～

(3) その他

※ 天地人サイエンスプロジェクト実行委員 室岡様より

3 諸連絡

4 閉会の挨拶

佐渡市立理科教育センター次長

長尾 謙治

日時:令和7年2月13日(木) 午後3時30分~4時45分

会場:佐渡市総合体育館(ヒルトップアリーナ佐渡) 1F 会議室

令和6年度 第2回運営会議参加者

(敬称略)

佐渡市立理科教育センター所長 (佐渡総合教育センター所長)	濱 崎 賢 一
佐渡市立理科教育センター次長 (佐渡市立佐和田中学校長)	長 尾 謙 治
佐渡市小学校教育研究会長 (佐渡市立金井小学校長)	藤 井 衛
佐渡市小学校教育研究会 理科部長 (佐渡市立河原田小学校)	佐々木 咲彩
佐渡市中学校教育研究会長 (佐渡市立赤泊中学校長)	本 間 学
佐渡市中学校教育研究会 理科部長 (佐渡市立金井中学校)	村 田 健 輔
佐渡市教育委員会学校教育課長	渡 邊 一 哉
佐渡市教育委員会教育指導主事	村 川 健太郎
学識経験者	荒 貴 源 一

※ この会議の議事録は、佐渡市のホームページに掲載されます
ことをご了承ください。

I 令和6年度実施事業報告

1 研修事業

(1) 授業力向上研修

① 指導基礎研修会（小・中学校初心者教員対象）

年間を通じての指導のポイント，配慮が必要な単元の研修として実施。

※ 以下，表内の「評価」は4段階の平均

対象学年等	期 日	内 容（指導単元）	参加者数	評価
小3理科	5月22日(水)	1年間の授業の進め方	1	4.0
小4理科	6月4日(火)	1年間の授業の進め方	3	4.0
小6理科	5月17日(金)	1年間の授業の進め方	1	4.0
小5理科	5月28日(火)	1年間の授業の進め方	3	4.0
中3理科	7月9日(火)	授業改善「生態系」	3	4.0
中2理科	9月5日(木)	授業改善「電流の正体」	2	4.0
中1理科	11月8日(金)	授業改善「大地の成り立ちと変化」	3	4.0
小生活科 (おもちゃ)	10月23日(水)	目標や趣旨，全体構成，指導のポイント ・おもちゃ作成の展開 ・おもちゃ例の紹介と製作	4	4.0

計 20

〔指導基礎研修アンケート感想の一部〕

- ◎ あっという間に時間が過ぎて楽しかったです。たくさん物の準備をしていただいたり，体験させてくださったりしたおかげで，自分のものとして持ち帰って，子どもたちに還元できます。ありがとうございました。
- ◎ QRコードでの資料添付や簡単な材料で行う実験の紹介があり，すぐに活用できると思った。日頃の授業についても協力員の方に質問することができ，ためになった。
- ◎ 様々な実験を見させていただき，実際に見ることで実験のイメージができました。また，道具も簡単に用意できるもので，学校でもやってみたいと思います。
- ◎ 静電気や放射線の授業は，知識のほうが多くなり，あまり面白い授業に出来ていませんでしたが，今回の研修でいろいろな活動があることを学びました。また，実際にいろいろな放射線を測ることで，身近な放射線量をイメージしやすいので，測定器を使ってみてみたいと思いました。

② ワンポイント研修会（全教科・全職員対象）

短時間で授業のポイントや工夫を学べる研修として実施。

研修会名	対象学年	期 日	内 容	参加者数	評価
ICT活用基礎編1	全学年	4月25日(木)	Teams や Forms の基礎的な内容	12	3.8
ICT活用共同編集編	〃	5月9日(木)	共同編集，実験データの入力	10	3.7
ICT活用基礎編2	〃	6月25日(火)	Office365以外のwebサイトを活用した問題演習	7	3.9
技能研修	〃	11月22日(金)	走査電子顕微鏡等実験器具の基礎技能研修	2	4.0
プログラミング教材の活用	〃	11月29日(金)	プログラミングスイッチの実習	5	4.0
放射線学習	〃	1月23日(木)	放射線学習	1	4.0

〔ワンポイント研修アンケート感想の一部〕

- ◎ Formsの使い方がよくわからなかったので、受講してよかったです。使いながらわからないことはまた先生に質問させてください。
- ◎ 前任校は新発田市で、TeamsやFormsを一切使っていなかったものでわからないことだらけでした。アンケート結果をテキストマイニングで表す方法を探していたので非常に助かりました。本日はありがとうございました。
- ◎ 一人ではまだ授業で活用できないので、少しずつ資料をみて頑張っていこうと思います。
- ◎ ほぼわかりませんでした。まずは触れるようにしたいです。
- ◎ オクリンクプラスの細かいところまで説明していただいて、とても分かりやすかった。オクリンクで撮った写真はダウンロードすることができることなど初めてわかることも多く、実践で活かしたいと思った。

③ 公開授業研修会・教材研修会（理科教員対象）

研究協力員と理セン協力員による授業研修会。理科担当教員が、授業実践・参観・協議を通して授業構成や教材等の工夫について研修する。

授業学年	期 日	授業者・研修担当者と内容	参加者数	評価
小3年	8月22日（木）	二宮小：多田 健治 教諭 小学校3年生理科「音の可視化をした教材づくり」	4	4.0
中1年	9月9日（月）	南佐渡中：木村 太郎 教諭 「気体の性質」	8	4.0
中3年	10月9日（水）	赤泊中：大屋那津子 教諭 「生物どうしのつながり」	9	4.0
中2年	10月24日（木）	前浜中：佐藤菜南子 教諭「電流と磁界」 (佐中研公開授業)	15	4.0
小3年	11月26日（火）	畑野小：宇佐美陽子 教諭「明かりをつけよう」	8	4.0
小6年	12月3日（火）	高千小：藤原 大輝 教諭 「水溶液の性質」	6	4.0

〔公開授業研修・教材研修会アンケート感想の一部〕

- ◎ 小学校の授業を見させていただき、中学校の授業「音」の分野をやる上で、とても参考になりました。教材制作とてもよかったです。
 - ◎ 一見当たり前と思える課題を指導計画の工夫で深い学びになるのだなあと勉強になりました。そして、いつもながら準備の大切さ、すばらしさを感じました。ありがとうございました。
 - ◎ 大変すばらしい授業でした。日頃の努力がにじみ出る生徒の様子、授業デザインでした。教え子の成長した姿を拝見し、自分にとっても心に残る1日となりました。福井先生の先進的な説得力のあるご指導も大変勉強になりました。
- ④ 授業研究会（小・中教育研究会理科部との共催：小中教研部員対象）
以下の研究授業を共催で行った。理科教育センター協力員が指導案検討会に参加し単元構成や授業展開、教材等について助言を行った。

期日	内 容	参加者数
10月24日（木）	◎ 佐中研理科部公開授業研修 単元名：「2年 電流と磁界」 授業者：前浜中 佐藤菜南子 教諭	15

⑤ 研究協力員会議（研究協力員は、小学校3名・中学校3名 計6名）

期日	内 容	参加者数
4月23日(火)	研究協力員が関わる事業についての説明と役割分担及び公開授業研修会に向けてのテーマ決め等	6
2月6日(木)	今年度事業の反省及び次年度事業の改善点検討(オンライン)	6

⑥ 理科主任研修会

期日	内 容	参加者数
5月15日(水) 金井コミセン	ア 演習「理科指導における新しい教材や操作方法について」 株式会社 ウチダ洋行 様 イ 今年度の事業についての説明・協議	37

※1会の終盤で以下の団体から事業説明あり。

ジオパーク推進室 世界遺産推進課

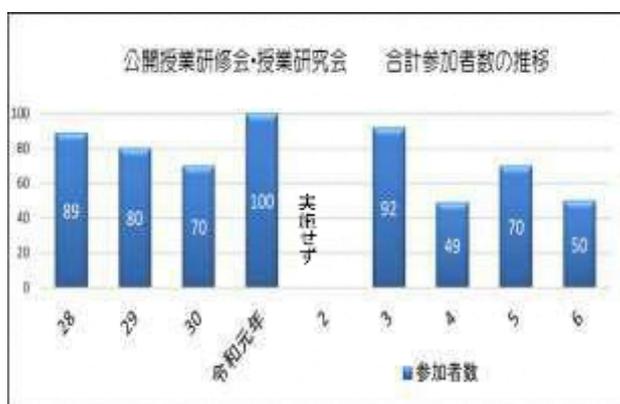
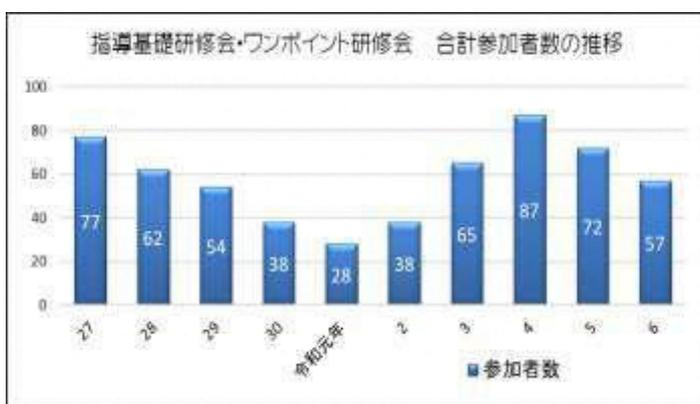
(2) 佐渡学研修（全教科・全職員対象）

研修会名	期 日	内 容	参加者数	評価
佐渡固有生物生態研修会	5月31日(金)	サドガエルをはじめとする佐渡の固有種の生態を学ぶ。 講師：高津 邦夫 様 (新潟大学佐渡自然共生科学センター 准教授)	3	4.0
植物研修会(海岸)	6月7日(金)	長石海岸近辺に見られる植物やその植生を観察する。 講師：中川清太郎 様 (日本自然保護協会自然観察指導員)	7	4.0
ジオパーク研修会	6月27日(木)	越の長浜方面に行き地質的な見どころや、沿岸に生息する生物の研修 講師：相田 満久 様 (佐渡市社会教育課ジオパーク推進室員)	9	4.0
磯の生物生態研修会	7月29日(月)	磯の生物観察をとおして、佐渡の磯に棲息する生物の生態等を学ぶ。 講師：大森 紹仁 様 (新潟大学佐渡自然共生科学センター所員の先生方)	14	4.0
佐渡の里山生態研修会	8月7日(水)	佐渡の里山の役割や生き物の生態やはたらきについて学ぶ。 講師：古郡 憲洋 様 (新潟大学特任助教)	13	3.9
加茂湖再生等環境教育研修会	11月5日(火)	加茂湖の環境の特徴や変化を知り自然環境保全の必要性や労苦を学ぶ。 講師：豊田 光世 様 (新潟大学佐渡自然共生科学センター 教授)	2	4.0
トキの生態研修会	11月14日(木)	佐渡の自然環境の象徴であるトキの現在の生態や今後の研究について学ぶ。 講師：永田 尚志 様 (新潟大学佐渡自然共生科学センター 教授)	4	4.0

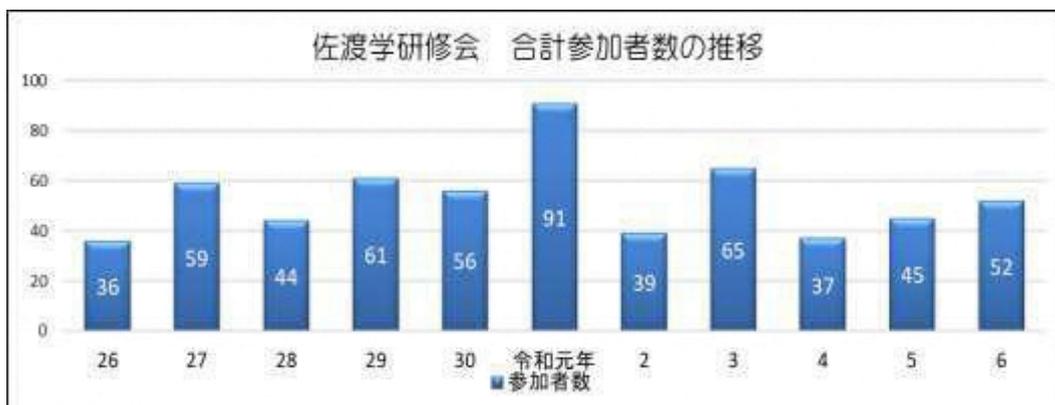
〔佐渡学研修アンケート感想の一部〕

- ◎ 実際に海に潜って生き物を捕まえる機会がとても珍しく、貴重な経験となった。出身が三重県ということもあり、佐渡の海に触れる機会となり、新しい発見がたくさんあった。
- ◎ 郷土愛を育むためには、教員が知っている必要があると考え受講に参加した。期待通り、佐渡の魅力を知り、授業への応用も想像できる研修であった。
地元の教材として活用できる。自分の知らない内容も学べた。子供が興味を引く内容だった。
- ◎ 他の佐渡学研修が厳しくとも、この研修だけは何とか参加できるように調整してもらっただけで、楽しみにしております。自分の知識や理解を広げるだけでなく、授業にも活用できる、有意義な研修だと思います。
- ◎ 解説がすばらしく、佐渡の自然への興味関心を引く内容だった。飽きさせない様々な工夫・配慮が行き届いていた。
- ◎ 加茂湖の自然のために懸命に取り組まれている方の思いに触れることができました。子どもたちにとっても、校外で、人の思いに触れたり、教えてもらったり、自分たちも体験したりすることは、とてもよい学びになると感じました。教員として、子どもたちとそのような学びをつなげる役割ができるようになりたいと思いました。

グラフで見る「1 研修事業」への参加者数推移



※令和3・4年はICT関連の研修の需要が多く参加者も多かった。
今年度は佐小研の公開授業研修がなかったため、参加者数とその分減った。



2 児童生徒・一般対象事業

(1) 要請教室・調査協力

依頼団体名	期 日	内 容	参加者数
加茂小児童クラブ①	6月13日(木)	スライム	39名
新穂小2年PTA	6月21日(金)	スライム	28名
河原田小5年PTA	6月22日(土)	スライム プラバンキーホルダー	34名
加茂小児童クラブ②	7月3日(水)	空気砲	48名
前浜小中放課後クラブ	7月8日(月)	万華鏡, 空気砲	12名
羽茂地域子ども会	8月10日(土)	万華鏡, 空気砲, 木炭電池オルゴール	8名
行谷小(1~6年)	9月19日(木)	プラバンキーホルダー	28名
二宮小4年PTA	11月27日(水)	スライム 万華鏡	23名
金井尾花子ども会	12月14日(土)	万華鏡, 静電気, 空気砲	27名
佐和田公民館	1月12日(日)	スライム 空気砲	16名
加茂小児童クラブ③	1月22日(水)	静電気	18名
佐渡特別支援学校	2月4日(火)	プラバンキーホルダー 空気砲	28名

計 12 回 ※ 前年度比 +1 回

(2) 科学研究サポートデー

- ① 7月25日(木)・26日(金)・31日(水)
② 8月18日(日) 午後

延べ5日間

会場：いずれも理科教育センター

訪問児童・生徒数 5 名 (小学生 2 名, 中学生 3 名)

※ 前年度比 +1 名

(3) 同定会

8月18日(日) 午後

会場：佐渡中央会館

講師：中川 清太郎 先生

北條 睦夫 先生

訪問児童・生徒数 4 名 (小学生)

※ 前年度比 -6 名

(4) 佐渡市子どものための科学祭り（小・中教育研究会と共催）

9月15日（日）・16日（月祝） 会場：アミューズメント佐渡

来場者数：974名

※ 前年度比 +116名

準備日程概略

科学祭り① 【第77回 児童生徒科学作品展】

出品数：小学生 116点

※ 前年度比 +6点

中学生 35点

※ 前年度比 ±0点

科学祭り② 【おもちゃコンテスト】

出品数（小学生のみ）14点

※ 前年度比 -5点

科学祭り③ 【科学体験教室】

9月12日（木）	作品搬入①・会場設営	14:00～17:00
13日（金）	作品搬入②・作品審査	14:00～ ※ 審査員 有識者3名（中川清太郎様、北條睦夫様、相田満久様） 佐小研・佐中研選出の教員12名 4団体代表（世界遺産推進課、農業政策課、 ジオパーク推進室、佐渡学センター）
15日（日）	科学祭り① 【児童生徒科学作品展】	9:00～16:30
	〃 ② 【おもちゃコンテスト】	13:30～16:30
16日（月祝）	科学祭り 【児童生徒科学作品展】	9:00～16:00
	〃 ③ 【科学体験教室】	14:00～15:30
16日（月祝）	会場復元・作品搬出	16:00～17:00
17日（火）	会場復元・作品搬出	9:00～11:30

※ 作品搬入・搬出の日を事前申告してもらった。ほとんどの学校が休日にもかかわらず、最終日の作品終了後に搬出、会場復元をしてくれた。

【体験教室のブースにご協力いただいた団体様】

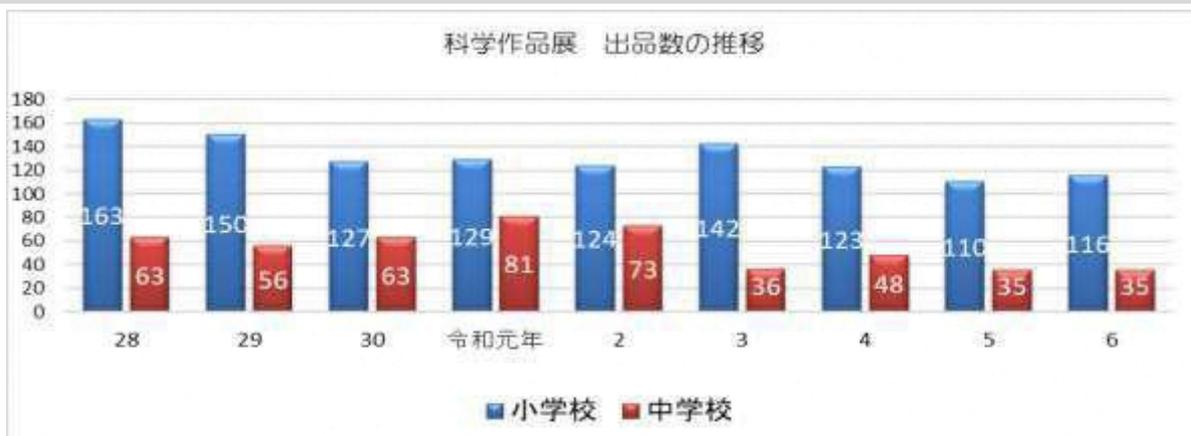
3会場

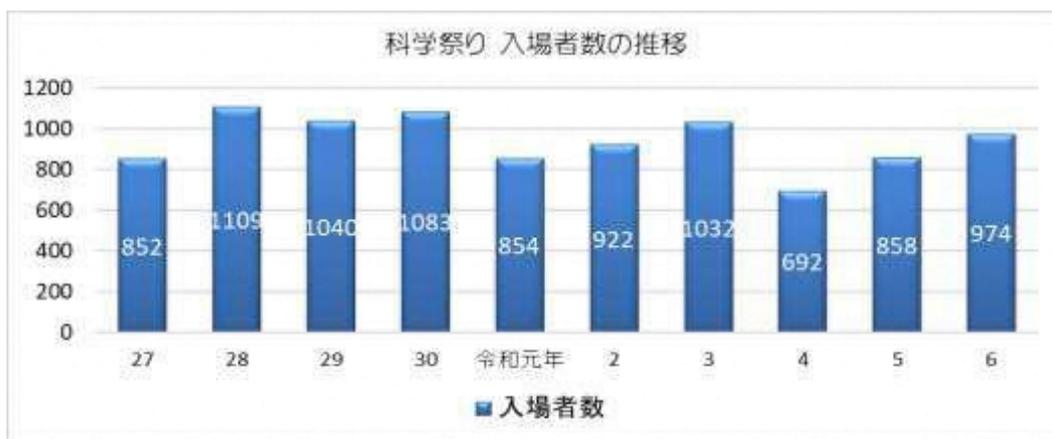
6ブースで実施。

前年度比 -1

- | | |
|----------------|-------------------|
| ① 化石レプリカづくり | (社会教育課ジオパーク推進係) |
| ② 海藻の中の生き物探し | (新潟大学臨海実験所) |
| ③ 佐渡島の金山体験 | (佐渡市世界遺産推進課登録推進係) |
| ④ オロイドづくり | (ときわ会佐渡理科サークル) |
| ⑤ ぐるぐるボールを作ろう！ | (理科教育センター事業協力員) |
| ⑥ 空とぶ種のふしぎ | (〃) |

「科学祭り」への参加者数推移





(5) 第 60 回佐渡市児童生徒科学研究発表会（小・中教育研究科と共催）

10月3日（木）中学生，4日（金）小学生 時間：14：00～16：30
会場：アミューズメント佐渡

発表作品数

【小学校】 計 28 発表（低 2 発表，中 8 発表，高 18 発表）

※ 1 前年度比 - 10

※ 2 低学年は紙上発表のみ

【中学校】 計 14 発表（物理・化学 10 発表，生物・地学 4 発表）

※ 前年度比 + 1

審査員：小学校：指導責任者（校長） 4 名
指導者（事業協力員，研究協力員，佐小研理科部） 8 名
中学校：指導責任者（佐中研理科部長，副部長） 3 名
指導者（研究協力員） 3 名

※ 中学校指導責任者 1 名が当日体調不良により欠席したため
教育指導主事が対応。

「科学研究発表会」への参加発表数推移



今年度の新潟県科学研究発表のバッジデザイン
村上市立村上第一中学校 2年 川村 奏さん

いきいきわくわく科学賞 2024（新潟日報社主催）

[全県応募数] 小学校 221 作品 中学校 107 作品 計 328 作品
 [佐渡市応募数] 小学校・・・14 作品（中学年 4 作品，高学年 10 作品）
 中学校・・・12 作品（物理・化学 8 作品，生物・地学 4 作品） 計 26 作品

[入賞者]

賞名	学校	学年	氏名	題
新潟日報社賞	金泉小学校	6	森川 響	モリアオガエルの観察 3年目 ～なぜ1匹ずつカエルになっていくのか～
東北電力賞	真野中学校	3	佐々木花菜	納豆って不思議 パート3 ～納豆オリンピック★目指せ!!菌(金)メダル★～
ナミックス賞	相川中学校	3	小宮山ちひろ	「ヤママユガの繭の色は何の色？佐渡の色？ Vol.3」
いきいき賞	河崎小学校	6	池 ひまり	屋根の形と雨・雪の残り方の関係
優秀賞	真野小学校	6	山本 奏太	凍らせたスポーツドリンクがとける時，なぜ 最初はあまいのか
優秀賞	南佐渡中学校	2 2	佐藤 咲優 廣嶋 彩	生活に欠かせない「水」とは？！

3 研究事業

(1) 地域素材研究

- ① 植物調査 ————— 山の植物 ドンデン山植物調査
- ② 海の生物調査 ——— 相川達者海岸での海中生物採集
- ③ 学習アプリの開発 — タブレットで検索できる植物図鑑アプリ
- ④ 新潟大学自然共生科学センターの研究協力
- ⑤ ジオパーク ————— 野外教室支援教材

(2) 研修・事業の記録

- ① 科学研究のつづり（12月発刊・配布）
- ② 令和6年度 理科研修会資料集（3月発刊）DVD

4 奉仕事業

(1) 個別相談

電話，来庁，当センターからの訪問等 多数

(2) 教材・教具等の貸出件数

約 56 件 ※ 前年度比 +20 件

(3) 広報活動

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| ① 理科センターだよりの発行 | 毎月 1 回発行（年間 12 回） |
| ② Teams での情報・資料提供，連絡・報告 | |
| ア 研修会やイベントの案内・活動報告 | イ 教材・教具の貸し出し |
| ウ 各種大会における受賞者紹介 | エ 教材や実験の紹介 |
| オ 指導のための資料提供 | カ 理センだより など |

(4) 学校給食異物混入同定調査

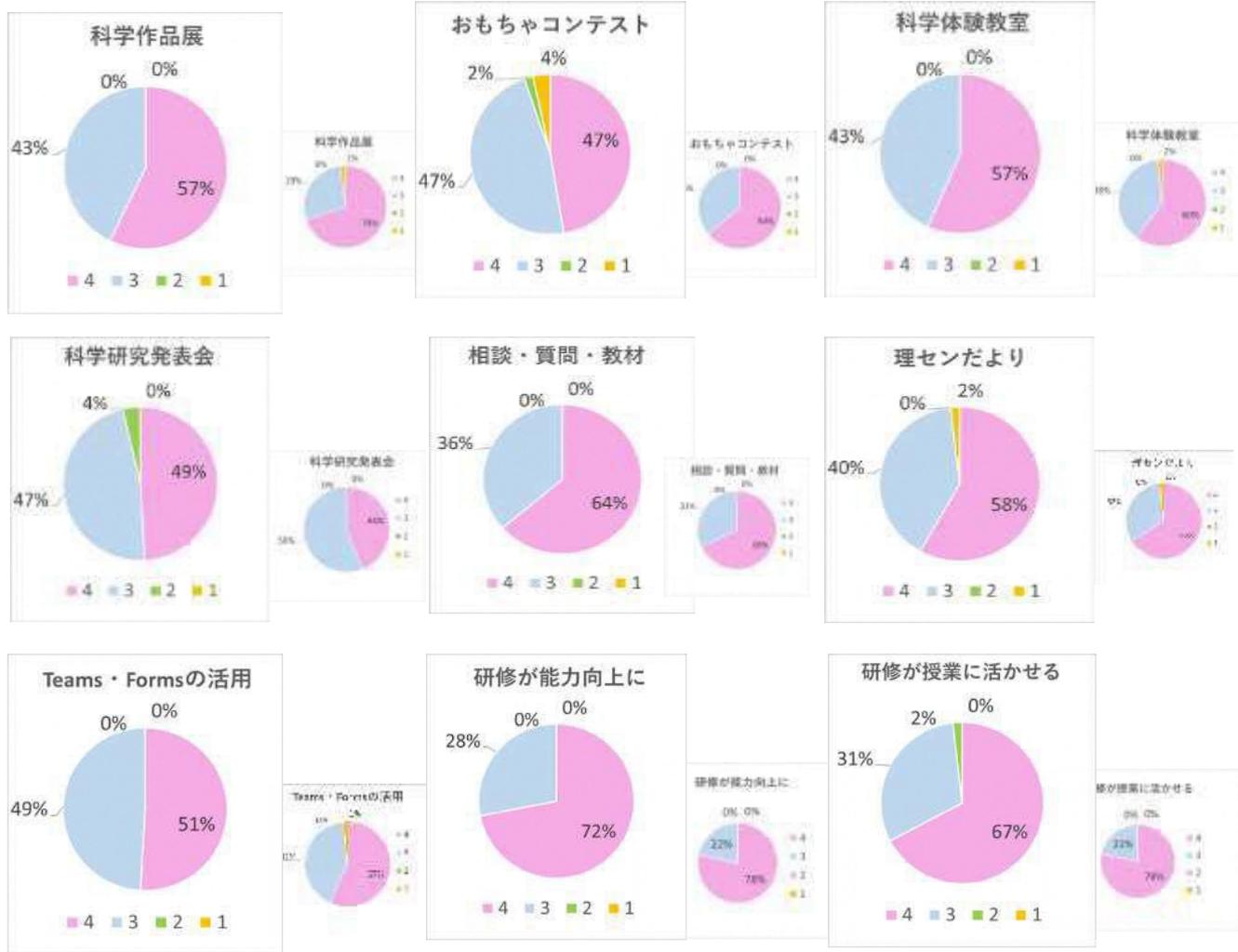
2 件（1 月末現在） ※ 前年度比 -13 件

5 年度末アンケートの集計結果

小さいグラフは昨年度結果

※ 昨年度から、Forms を活用し全教員対象に配付した。ただし、ほとんどかわりのなかった教職員は任意とした。

評価基準： とてもよい「4」 ■ 大体よい「3」 ■ あまり良くない「2」 ■ 要改善「1」 ■



研修の調査

評価基準： とてもよい「4」 ■ 大体よい「3」 ■ あまり良くない「2」 ■ 要改善「1」 ■



6 成果と課題・改善策

(1) 授業力向上研修会

主催するすべての研修会を実施することができた。参加者数は昨年度と同程度で、総じて参加者の評価は高いが、研修会の内容によって人数の増減が見られる。

研修内容については、参加者間のスキルに大きな差はあったが、研究協力員や所員の支援体制を整え、個々のニーズに応えることができた。

I C T活用及び実践的な研修は、ワンポイント研修の中に組み入れて、できるだけ要望に応える内容で進めてきた。

公開授業研修会は計画通り実施し、参加者からも参考になったという声が多数聞かれた。昨年度より参加希望者は若干少なくなったが、有意義な研修であるという意見は多い。ただし、小学校では理科を担当する教員が限られ、今後の実施形態を検討する必要がある。指導者は、今年度も市内の校長より快く引き受けていただき、最先端の授業技術、地域の特色や児童の実態を配慮した指導講話をいただくことができた。

来年度は、研究協力員の選考、日程や内容等、運営方法の更なる見直しを図る必要がある。

(2) 佐渡学研修会

計画した7回の研修のうち1回は指導者の都合で日程を変更して実施した。来年度は以下の点に配慮しながら、フィールドワークを中核に据えた研修を継続する。

- ① 市内の理科に関わる専門家や関係機関との連携を深め、より一層研修内容の充実を図る。
- ② できる限り勤務時間内に参加できるように、平日に実施し、あまり天候に左右されない内容にする。
- ③ 「Teams」や「理科センターだより」「ホームページ」を活用して更なる広報活動を行う。また、教材、研究資料等の自校活用促進に向け、研修後の活動報告や資料提供をタイムリーに行う。

(3) 子どものための科学祭り(科学作品展, おもちゃコンテスト, 科学体験教室)

年度末アンケートではほぼ、継続を希望する意見がほとんどだった。作品数は平年並みだった。標本は減少傾向だが、毎年取り組む児童生徒が多くなった。

課題としては、以下のような点が挙げられる。

- ① 佐渡学作品を科学的なものに限定して3年目になるが、作品数は特に変わらない。分野を広げてほしいという意見もあるが、科学祭りなので来年度も今年度同様科学的なものに限定をしたい。また、模造紙にまとめる科学作品はできるだけ「科学研究発表会」への参加を促し、作品展には奨励しない方針は継続して周知した。
- ② 作品の記録文について改善が必要。また、担当への周知を確実にを行う。
- ③ 休日にも関わらず、作品搬出と、会場復元に協力していただく学校がほとんどだったので、大変助かっている。
- ④ 科学体験教室は、昨年度より1つ少ない6ブースで行なったが、逆に来場者は多くなった。
- ⑤ 会場の長机が新しくなり、展示の割振りについては工夫・改善をしたので、準備はスムーズにできた。
- ⑥ 開催日については、今年度の同時期とする。
- ⑦ おもちゃコンテストは、おもちゃ作品が参観者によく見えるように、手元を拡大して映す等の工夫ができた。
- ⑧ 科学作品展やおもちゃコンテストについて学校として最初から不参加対応の措置をとったところがあった。保護者や児童生徒からの参加申し込みや要望があればできるだけ参加していただくよう要項に明記する。
(ただし、小中教研主催なので、今後変更があれば実施方法等の見直しを図っていく必要がある。)

(4) **科学研究発表会**

会場をアミューズメント佐渡にし、中学校3会場、小学校4会場で実施した。開催したことに対する謝辞が多く寄せられた。発表参加者は昨年度より若干減ったが小学校高学年は増えている。

事前に発表方法を確認しておいて、市教委からプロジェクターや接続コードを借用し、確保したので、機材についてのトラブルはなかった。

新潟県の「いきいきわくわく科学賞2024」への出品は26作品で昨年度より7作品増えた。入賞者数は昨年度より多かった。

学校への負担軽減という視点で今後実施体制や方法について工夫しながら実施する。

→ **別紙 改善案あり**

(5) **科学体験教室 要請講座・調査協力**

今年度12件依頼があり、全て実施した。PTAや放課後児童クラブの依頼が増えている。やはり平日の午後の依頼が多い。

(6) **科学研究サポートデー**

今年度、科学研究サポートの依頼数は減ったが、それだけ丁寧に対応できた。

(7) **同定会**

計4名の依頼があり、参加すべて小学生、前年度より6名減。酷暑のためか、標本作成をする児童生徒が減少し、取り組む児童生徒が固定している。今後理科センターでも研修の1つとして組み込んでいくことを検討中。

(8) **その他**

本年度より隣接する佐和田中学校の改修工事が行われているので、学校及び工事関連業者と連絡を密にして事業を安全に遂行する。

Ⅱ 令和7年度の運営について(案)

1 運営の基本方針 (案)

- 1 児童生徒の主体的・対話的で深い学びを目指して、興味・関心を高める観察・実験や問題解決的な指導法の提案、学習指導に適する地域素材の教材化等、教材の開発と活用法の紹介に努める。
- 2 佐渡市小・中教育研究会と連携を図り、授業実践や基礎技能研修の充実を図る。
- 3 「子どものための科学祭り」「科学研究発表会」では、教職員の負担に配慮しつつ、より一層の充実に努める。
- 4 指導に有効な資料、教材、教具の紹介及び斡旋提供のサービス活動に努める。
- 5 新潟大学をはじめ島内の専門機関との連携を密にし、佐渡の自然環境を学ぶ研修の充実に努める。
- 6 県立教育センター、各大学との連携を図り、研修会の充実に努める。
- 7 県内各理センとの連携を強化し、指導法や教材の活用方法の充実に努める。

2 運営の重点 (案)

※ 働き方改革推進，授業時数確保等に配慮しつつ，研修時期や回数の見直しと内容の焦点化を図る。

1 研修事業

(1) 授業力向上研修

① 指導基礎研修会(初心者対象)

◇ 初めて理科を担当する教員でも，年間を通して学習内容を見通し，基礎基本を確認して安心して授業を進められるようになる研修会。平日1時間程度で実施する。

・生活科1回，小3年～小6年 各1回，中学校3回 計8回 前年度と同

② ワンポイント研修会(全教科，全職員対象)

◇ 教員の要望や関心のある今日的な内容を，ポイントを絞って行う研修会。平日の午後1時間程度で実施する。

・ICT活用研修会(全教科，全職員対象) ミライシード，プログラミング
・技能研修(基礎技能，薬品の安全管理)
・放射線学習 計6回 前年度と同

③ 公開授業研修会・教材研修会(理科教員対象)

◇ 小中合計6名の理セン研究協力員がそれぞれテーマを決め，授業実践を公開したり，理科授業の効果的な指導法について紹介したりする研修会。

公開授業の指導者は県センターの指導主事に基本的に依頼するが，日程が合わない場合は島内の管理職に依頼する。 前年度と同

④ 授業研究会支援(小・中教育研究会理科部との共催：小中教研部員対象)

◇ 授業実践に基づく協議を行い，理科授業改善の視点を得的研修会。理センとして教材研究，指導案検討等の支援を必要に応じて行う。 前年度と同

(2) 佐渡学研修(全教科，全職員対象)

佐渡の自然に対する理解を促し，地域素材の教材化の方法や環境との関わり等を学ぶ研修会。新潟大学等の専門機関や島内の学識経験者と連携し，フィールドワークを研修の中核に位置付けて実施する。理科のみならず総合的な学習の時間や特別活動等でも活用できる内容とする。 前年度と同

2 児童生徒・一般対象事業

(1) 科学教室（要請教室）に関して

- ◇ PTA，地域，各種団体等の要請による科学教室を実施し，児童生徒・保護者の科学に対する関心を高める。
※ 原則として平日の午後か，土・日曜日午前中のみ受け入れとする。

(2) 科学研究発表会に関して（別紙 改善案あり）

- ◇ 科学研究推進のために，夏季休業中に「科学研究・科学作品サポートデー」・「同定会」を実施し，意欲のある児童生徒・保護者を継続して支援する。なお，小学校低学年については紙上発表での参加を促す。

(3) 子どものための科学祭り・科学作品展に関して（天地人SPと同時開催予定）

- ◇ イベント当日の活動だけでなく，児童生徒が佐渡学や作品作り・標本作り・おもちゃ作り等に意欲的に取り組めるよう，継続的な支援を行ったり，島外大会への出品案内等を行ったりする。
- ◇ 行政・大学・専門家・県立学校・企業等と連携し，地域ぐるみで理科教育の振興に努める。
- ◇ 来場者数の増加を図るべく，広報活動を充実し，科学への関心を高め，地域の理科教育振興に努める。

3 研究事業

地域の自然の教材化を目指す研究を行う。露頭，河川の形状，植物の生態調査等を行う。

4 奉仕事業

(1) 教材・教具の紹介と貸し出し

Teams やたよりを活用して，指導に有効な教材や教具等を広く紹介し，積極的に貸し出しを行う。

(2) 教材作成支援等

各種研修会に参加できなかった教員に対して，要望があれば個別に対応するよう努める。

(3) 広報活動

- ◇ 「理科センターだより」を定期的に発行し，その時期に合った話題や観察実験についての情報提供，理科教材の紹介，研修会予定・内容の紹介などを行う。
- ◇ Teams 内に立ち上げたチーム「理科教育センター」に，おたよりや科学祭り等の行事や研修会の様子，研修資料等をアップロードして，佐渡市理科教育の広報に努める。佐渡市のホームページでも可能な限り広報活動していく。

(4) 学校給食異物混入同定調査

当センターで，でき得るところまでは協力していくが，あくまでも確実な判定はできない。

3 事業の具体的内容（案）

下記掲載の実施期日はあくまでも「予定」。小中校長会等、今後関係団体との調整により変更になるものがあると思われるので、新年度4月に開催する第1回の運営会議にて最終的な期日を報告する。

1 研修事業

(1) 授業力向上研修関連

事業名	担当	事業内容
指導基礎研修会 ・小3～小6各1回 小計4回 ・生活科 1回 ・中学校 3回 計8回	理セン協力員	・小学校理科授業の進め方 小3（5/21） 小4（6/3） 小5（5/23） 小6（5/13） ・中学校理科授業の進め方 中3 化学変化と電池 （9/4） 中2 雲のでき方 （9/16） 中3 運動とエネルギー （11/7） ・生活科：おもちゃをつくろう （10/22）
ワンポイント研修会 （全教科全職員対象） （理科教員対象） 計6回	理セン協力員	「技能研実験・実験・薬品の安全管理」 （4/30） 「天体指導のアイデア」 （5/9） 「ICT研 ミライシード，オクリンク」 （6/19） 「ICT研 プログラミング，プロットカー」 （11/21） 「ICT研 プログラミングスイッチ」 （11/28） 放射線学習 （1/22） ☆放射線に関する科学的な知識を身に付ける研修
公開授業研修会 （理科教員対象） 計6回	理セン協力員 研究協力員	・理科担当教員が、授業の参観と協議を通して授業構成や教材等の工夫について研修する。 （6回 前年度同数 予定） ※小3回 中3回 ※日程調整中
授業研究会 （小中教研理科部共催）	理セン協力員	・授業実践を通して、指導法や観察・実験方法などについて検討し理科担当者の指導力向上を図る。
研究協力員会議 計2回		・理セン研究協力員（小3名・中3名）が各研修会の内容や分担等について検討する。 （4/23 ， 2/5） ※ 2回目はオンラインか書面審議
理科主任研修会 計1回	専任所員 （教育指導主事）	・理科センターの事業計画の説明および講話を行う。 （5/16） 指導者：理科教育関係者

(2) 佐渡学研修（全教科，全職員対象）

研修名	期日 (予定)	担当	講師（予定）
① 佐渡固有生物等生態研修会	5 / 27	専任所員 (教育指導主事)	講師：高津邦夫様（新大准教授） 佐渡自然共生科学センター
② 里山の植物観察会 ※ 前年は「海岸」の植物	6 / 6		講師：中川清太郎 様（学識経験者） 佐渡の里山等
③ ジオパーク研修会	7 / 9		講師：相田満久 様（市ジオパーク推進室） フィールドワーク地：未定
④ 磯の生物生態研修会	7 / 31		講師：大森紹仁 様（新大助教） フィールドワーク地：新大臨海実験所周辺
⑤ 佐渡の里山（等）研修会	8 / 6		講師：古郡憲洋 様（新大特任助教） フィールドワーク地：佐渡自然共生科学センター
⑥ 環境教育研修会	10 / 10		講師：豊田光世 様（新大教授） フィールドワーク地：加茂湖周辺
⑦ トキの生態研修会	11 / 中旬		講師：永田尚志 様（新大教授） フィールドワーク地：佐渡自然共生科学センター

2 児童生徒・一般対象事業

事業名	事業内容
科学教室（要請教室）	P T A，地域，各種団体の要請に応じて開催する科学教室。原則として平日の午後か，土曜日午前中のみ受け入れとする。R7 年度も開催予定であるが，感染症流行状況等によっては当センターの判断で中止とすることもある。
科学研究・科学作品支援(サポートデー)	希望児童・生徒を対象に，科学研究の進め方（課題選び，研究過程での問題解決など）や作品づくりの支援を行う。 7月下旬 ※ 実施時間13:30～16:30 ※ 理センの予定が合えば他日でも随時受け付ける。
標本同定会	児童生徒を対象に，植物・海藻・貝・昆虫標本の名前を確認する会を行う。 8月17日(日) 10:00～16:00（ヒルトップ佐渡を利用予定）
子どものための科学祭り ① 科学作品展 ② おもちゃコンテスト ③ 科学体験教室	地域の科学振興を目的として，佐小研・中教研との共催で行う。地域の企業等と連携する。 9月14日(日) 15日(月祝) アミューズメント佐渡 ※ 作品搬出は 15日(月祝) と 16日(火) ① 児童・生徒の標本，科学作品，佐渡学作品等を展示 ② 児童の手作りおもちゃを発表するコンテスト ③ 科学体験ブースを設置し，来場者が参加できる体験教室 各研究団体等がブースを運営し，活動をアピールする。 ※ やや会場内の設営を変更する予定（準備の関係で）
児童生徒科学研究発表会	児童・生徒の科学研究の発表の場として行う。小学校低学年も，紙上発表として受け付ける。 ・ 中学校の部 10月2日(木)：アミューズメント佐渡 ・ 小学校の部 10月3日(金)：アミューズメント佐渡 ※ 小学校低学年は「紙上発表」による参加とする。

3 研究事業

事業名	事業内容
地域素材研究	野外観察に適した露頭，河川，天体観察，佐渡各地の植物等を調査・研究し，地域の自然の教材化を目指す研究を推進する。
研修・事業の記録	「科学研究のつづり」を発刊する。

4 奉仕事業

事業名	事業内容
教材・教具の貸出	Teams を活用して，チーム「理科教育センター」を充実させ，利便性のさらなる向上を図る。
教材作成支援等 個別相談	①教員対象に理科指導に関する疑問・質問等の相談に応じる。 ②一般の方からの佐渡の自然に関する質問・相談に応じる。
広報活動	①「理科センターだより」の発行 ②チームズ「理科教育センター」での研修イベントの紹介 ③佐渡市ホームページでの広報活動
学校給食異物相談	相談にはできる限り迅速に対応し，異物同定の支援をする。

4 予算（案）

令和7年度理科教育センター予算（案）

(1) 歳入の部 (単位：千円)

項目	令和7年度予算額	令和6年度予算額	対前年度増減額	備考
理科教育センター費	1,249	1,207	42	佐渡市本予算 (貸金等は別途予算)
歳入合計	1,249	1,207	42	

(2) 歳出の部 (単位：千円)▲減

項目	令和7年度予算額	令和6年度予算額	対前年度増減額	算定の基礎
報償費	115	95	20	講師等謝礼，運営委員謝礼
旅費	230	238	▲8	研修会講師・所員等旅費
需用費	699	682	17	消耗品費，燃料費， 印刷製本費，修繕料
役務費	65	65	0	通信運搬費
委託料	126	113	13	警備保障
負担金	14	14	0	地区理セン連絡協議会負担金
歳出合計	1,249	1,207	42	

佐渡市立理科教育センター条例

平成 16 年 3 月 1 日
条例第 123 号

(設置)

第 1 条 佐渡市の小、中学校の理科教育及び科学技術教育の振興を図るため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 30 条の規定に基づき、佐渡市立理科教育センター（以下「理科センター」という。）を設置する。

(名称及び位置)

第 2 条 理科センターの名称及び位置は、次のとおりとする。
名称 位置 理科教育センター 佐渡市窪田 60 番地
(平 22 条例 24・全改)

(事業)

第 3 条 理科センターは、次に掲げる事業を行う。
(1) 理科教育関係職員の研修を行う。
(2) 理科教育に関する研究を行うこと。
(3) 理科教材資料作成に関すること。
(4) 前 3 号に掲げるもののほか、理科教育振興に必要な事項

(職員)

第 4 条 理科センターに、所長その他必要な職員を置く。

(委任)

第 5 条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、平成 16 年 3 月 1 日から施行する。

附 則(平成 17 年 3 月 30 日条例第 7 号)

この条例は、平成 17 年 8 月 1 日から施行する。

附 則(平成 22 年 3 月 26 日条例第 24 号)

この条例は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

佐渡市立理科教育センター条例施行規則

平成 16 年 3 月 1 日

教育委員会規則第 16 号

改正 平成 20 年 3 月 27 日教委規則第 10 号

平成 22 年 3 月 24 日教委規則第 5 号

平成 26 年 3 月 27 日教委規則第 3 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、佐渡市立理科教育センター条例(平成 16 年佐渡市条例第 123 号)第 5 条の規定に基づき、その運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第 2 条 佐渡市立理科教育センター(以下「理科センター」という。)の事業は、佐渡市小、中学校の理科教育の振興を図るとともに、佐渡市内の小、中学校の理科教育の振興を図るため必要に応じて島内に講習会場を設け、講習等を実施することができるものとする。

(職員)

第 3 条 理科センターに次の職員を置くことができる。

- (1) 所長 1 人
- (2) 次長 1 人
- (3) 専任所員 1 人
- (4) センター協力員 1 人
- (5) 研究協力員 若干人
- (6) 事業協力員 若干人
- (7) 事務職員 1 人

(平 22 教委規則 5・全改)

(任命)

第 4 条 職員の任命は、佐渡市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が任命する。

(任務)

第 5 条 職員の任務は、次のとおりとする。

- (1) 所長 理科センターの業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- (2) 次長 所長を補佐し、所長に事故があるときは、その職務を代理する。
- (3) 専任所員 理科センターの事業推進の中核となる。
- (4) センター協力員 専任所員に協力して理科センター事業を推進する。
- (5) 研究協力員 専任所員に協力して研修事業を推進する。
- (6) 事業協力員 専任所員に協力して児童生徒一般対象事業を推進する。
- (7) 事務職員 所内の事務を行う。

(平 22 教委規則 5・一部改正)

(研修員)

第 6 条 理科センターは、公的機関の研修員を受け入れることができる。

2 研修員は、専任所員、研究協力員、委嘱講師等の指導のもとで、小、中学校における理科教育についての研修並びに地域教材の研究及び調査等を行う。

3 前項にかかる経費は、理科センターが負担する。(平 22 教委規則 5・一部改正)

(その他)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が別に定める。

(平 26 教委規則 3・旧第 8 条繰上・一部改正)

附 則

この規則は、平成 16 年 3 月 1 日から施行する。

附 則(平成 20 年 3 月 27 日教委規則第 10 号)

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 22 年 3 月 24 日教委規則第 5 号)

この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 26 年 3 月 27 日教委規則第 3 号)

この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

佐渡市立理科教育センター運営会議開催要綱

平成 26 年 3 月 27 日
教育委員会告示第 5 号

(趣旨)

第 1 条 この告示は、佐渡市立理科教育センター条例(平成 16 年佐渡市条例第 123 号)第 2 条に定める理科教育センターの運営を適正かつ円滑に行うに当たり、広く学校関係者等からの意見、助言等を求めるため、理科教育センター運営会議(以下「会議」という。)を開催することに関し必要な事項を定めるものとする。

(協議事項等)

第 2 条 会議において協議する事項は、年度毎の事業の大綱その他運営に必要な事項とする。

(参加者)

第 3 条 佐渡市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、次に掲げる者のうちから、会議への参加を求めるものとする。

- (1) 理科教育センター所長
- (2) 理科教育センター次長
- (3) 佐渡市小学校教育研究会長
- (4) 佐渡市小学校教育研究会理科部長
- (5) 佐渡市中学校教育研究会長
- (6) 佐渡市中学校教育研究会理科部長
- (7) 教育委員会学校教育課長
- (8) 教育委員会学校教育課指導主事
- (9) 学識経験又は知識を有する者
- (10) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める者

(座長)

第 4 条 会議の参加者は、その互選により会議を進行する座長を定めるものとする。

2 座長に事故があるとき、又は座長が欠けたときは、あらかじめ座長の指名する参加者が座長を務めるものとする。

(関係者の出席)

第 5 条 教育委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見等を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(開催通知)

第 6 条 教育委員会は、会議の開催日時、場所、協議案件その他必要な事項を前もって参加者に通知するものとする。ただし、緊急を要する場合については、この限りでない。

(守秘義務)

第 7 条 会議の参加者又は関係者は、会議で知り得た秘密を漏らしてはならない。会議が終了した後も、同様とする。

(庶務)

第 8 条 会議の庶務は、教育委員会学校教育課において処理する。

(その他)

第 9 条 この告示に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この告示は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。